

平成24年度事業計画書

(平成24年9月1日から平成25年8月31日まで)

特定非営利活動法人フードバンク関西

特定非営利活動法人フードバンク関西は、本年度活動開始から10年を迎えます。2003年4月に食品提供企業1社からのパン野菜果物を、ホームレス支援団体2つに一日おきに運ぶことから活動を開始しました。「食べ物を大切にし、お互い支え合う社会を築きたい」という活動趣旨が皆様の理解を得て、現在食品提供企業は50数社、受け取り団体は90余を数え、新たに「食のセーフティネット」事業にも活動範囲が拡がりつつある事は皆様からのご支援の賜と感謝し、さらに事業内容の充実を図る年度となるよう、ボランティア一同心を合わせて努力したいと考えます。

I 余剰食品の回収と要支援生活者を支える非営利福祉団体への分配事業について

フードバンク関西は、昨年度に引き続き本年度も、食品関連企業から余剰食品を回収し、要支援生活者の自立を支援する非営利福祉団体に、これらが無償で分配する事業を継続し、さらに発展させます。

「命の糧である食べ物を大切にしたい。」というフードバンク関西の活動趣旨を堅持し、まだ提供企業となっていない企業の皆様にも理解を求め、食品の量と種類の確保に地道な努力を重ねていきたいと思えます。

「食のセーフティネット」の役割を担う取り組みでは、昨年度、芦屋市、尼崎市で実際の仕組みが整い、稼働し始めました。

本年度は、まだこの仕組みが整わない近隣の行政と協議を重ね、それぞれの地域にふさわしい方法の「食のセーフティネット」を拡大していきたいと考えます。私達が生活する地域では、「食のセーフティネット」が整い、福祉のネットから洩れてしまった「空腹なのに食べる物が無い」個人を、このセーフティネットで救い上げ、孤独死が無い地域と変えていく事に積極的に取り組みます。

II フードバンク事業推進のための行事を含む広報活動

本年度は、当法人活動10周年となる節目の年度であり、フードバンク事業の内容の充実を図ることに加えて、広報活動に積極的に取り組み、「フードバンク支援による社会貢献」を促す働きかけを実践したいと考えます。

今までは、食品回収と分配事業推進にエネルギーを集中し、広報活動に力を注ぐ事が少なかったという反省に基づき、本年度は意欲的に広報活動に取り組んで、賛助会員、特に法人会員の増加、行政からの補助金の獲得、広く一般市民への活動趣旨の周知と支持を仰ぎ、結果として当法人の継続的安定運営に繋いでいく事を目指します。

その具体的な方法としては、受け取り団体や企業、一般市民を対象にした活動紹介の機会を作る事を、ラッフルキルトの継続と合わせて企画したいと考えます。

さらに地域の他のNPOとの関係強化や共同事業、共同広報への参加を行い、加えて食品提供企業は勿論、新しい企業への働きかけを積極的に実行していきたいと思えます。

また、フードバンク全国ネットワークが提唱するガイドラインに沿って、全国レベルのフードバンク事業の内容の充実に寄与したいと考えます。

他のフードバンク団体とは、密接な情報交換、実質的な食品の交換等を含めた相互支援関係を作り、新たにフードバンク事業の開始を計画する団体へも出来る範囲で協力し、フードバンク事業の各地への拡大に貢献します。

III 問題点の解決への方法

フードバンク関西の最大の問題点は、フードバンク事業から収益が上がらず、その運営費を他に求めなければならない事にあります。現在までは、活動趣旨に賛同して下さる皆様からの賛助会費と寄附、そしてその不足分を助成金に依存してきました。

当法人が現在までフードバンク事業を順調に拡大できた事は、この活動をたくさんの方が意義あるものと認めて、賛助会員の年会費を負担、あるいは寄附と言う形でのご支援をお寄せ下さる事によります。

本年度は、広報活動の充実と強化に努力し、広い分野を対象とした法人賛助会員の獲得を図ります。

また、私達の活動趣旨やセーフティネットの仕組みを住民の皆様を知っていただき、ご負担の少ない個人賛助会員としての参加を求め、「地域の余剰食品を、地域のボランティアによって、地域の要支援者に還元し、それらの活動を地域の皆様に支えていただく。」という、フードバンク関西が目指す、理想の活動形態の実現に一歩ずつ近づいていきます。

皆様方の力強いご支援をよろしくお願いします。